

令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 7月1日 / 年度末 月 日
氏名	有山 裕美子
国文学科	准教授
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務(何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
学習指導と学校図書館	子ども	2
学校経営と学校図書館	子ども	2
情報メディアの活用	子ども	2
読書と豊かな人間性	子ども	2
基礎力プログラムⅠ	国文	1
基礎力プログラムⅢ	国文	2
基礎力プログラムⅣ	国文	1
図書館情報技術論	国文	1
図書館情報資源論	国文	1
ゼミⅠ・Ⅱ	国文	2

②担任制度

担任(1年生)		担任(2年生)	
---------	--	---------	--

③委員会活動

運営協議会		SD委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	委員長
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会	委員	保育・教育実習運営委員会	
学生委員会	委員	ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会		授業料等減免者審査委員会	委員長
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

*文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A(産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B(地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	担当
WG-D(事業管理) 学内代表		WG-C(地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
助成者	日本学術振興会
資金名	科学研究費助成事業
研究種目	基盤研究 (B)
期間	令和5年4月～令和9年3月
助成金額（期間中合計）	14,430千円
研究課題	学校教育とデジタルアーカイブを結ぶ学習内容 LOD を用いた架け橋モデルの設計
備考（分担者等）	分担者

外部資金獲得	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
助成者	日本学術振興会
資金名	科学研究費助成事業
研究種目	基盤研究 (B)
期間	令和6年4月～令和10年3月
助成金額（期間中合計）	18,460千円
研究課題	校長含む教職員の著作権知識や経験値等の実態分析に基づく個別最適な著作権研修の構築
備考（分担者等）	分担者

外部資金獲得	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
助成者	日本学術振興会
資金名	科学研究費助成事業
研究種目	基盤研究 (C)
期間	令和7年4月～令和11年3月
助成金額（期間中合計）	4,420千円
研究課題	学校図書館を中心とした雑誌利活用教育 (MIE) の実証的研究：日米英を対象として
備考（分担者等）	分担者

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「德育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】 学生の学習と大学生活の両面を中心に、学生支援に注力する。
個人の教育理念・目標	本学の教育理念及び、建学の精神に基づき、「教育者を育てる教育者」として日々学び、自己研鑽につとめるとともに、学生ひとり一人の課題や学びに寄りそう、きめ細やかな指導をおこないます。 また、学生の理解が深まるような授業の工夫、改善につとめ、社会に出た時に役に立つような実践的なカリキュラムの実践を目指す中で、授業内容を工夫し、魅力ある授業を実践するとともに、それらの成果を外部に向けて発信していくよう努力していきます。また、積極的に自己研鑽に努め、その成果を学外での研究発表や論文投稿で発信していくことにより、本学における実践や研究の成果を公開していきます。

3. 方法（その考え方をどうやって実現しているか）

授業	
授業以外 (学生支援等)	

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	
授業以外 (学生支援等)	

5. 目標（今後どうするか）

授業	
授業以外 (学生支援等)	

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上